
2011年3月期 決算概要

2011年5月13日

バンドー化学株式会社

2011年3月期決算の概要

(1) 決算のポイント

- 当年度は、各国政府による景気刺激策の効果、新興国の景気拡大、国内ではエコカー補助金等の景気対策の効果で総じて回復基調にあったが、年後半より、景気対策の終了、円相場の高止まりにより、先行き不透明さが残る中で推移するも、増収増益を堅持
- 特に韓国、タイ、中国を中心としたアジア地域が大幅に伸長
- 大幅な増益を達成したものの、原材料高騰の影響により、業績予想(11/5公表)に対し、未達の結果に。
- 東日本大震災の影響を考慮し、短期借入を実施、手元流動性を確保
(なお、純有利子負債は44億円減少)

(2) 東日本大震災の影響(2011年3月期)

■ 被害状況

- 足利工場(MMP事業部生産拠点)
- 建物、設備等の一部損傷

■ 生産状況

- 3月23日より段階的に生産再開、4月末に通常操業に復旧

■ 損失額

- 2011年3月期55百万円特別損失計上(2012年3月期に75百万円計上予定)

■ 業績への影響

- 売上高 Δ 5.6億円、営業利益 Δ 2億円

(3) 2011年3月期業績の概要

単位:百万円

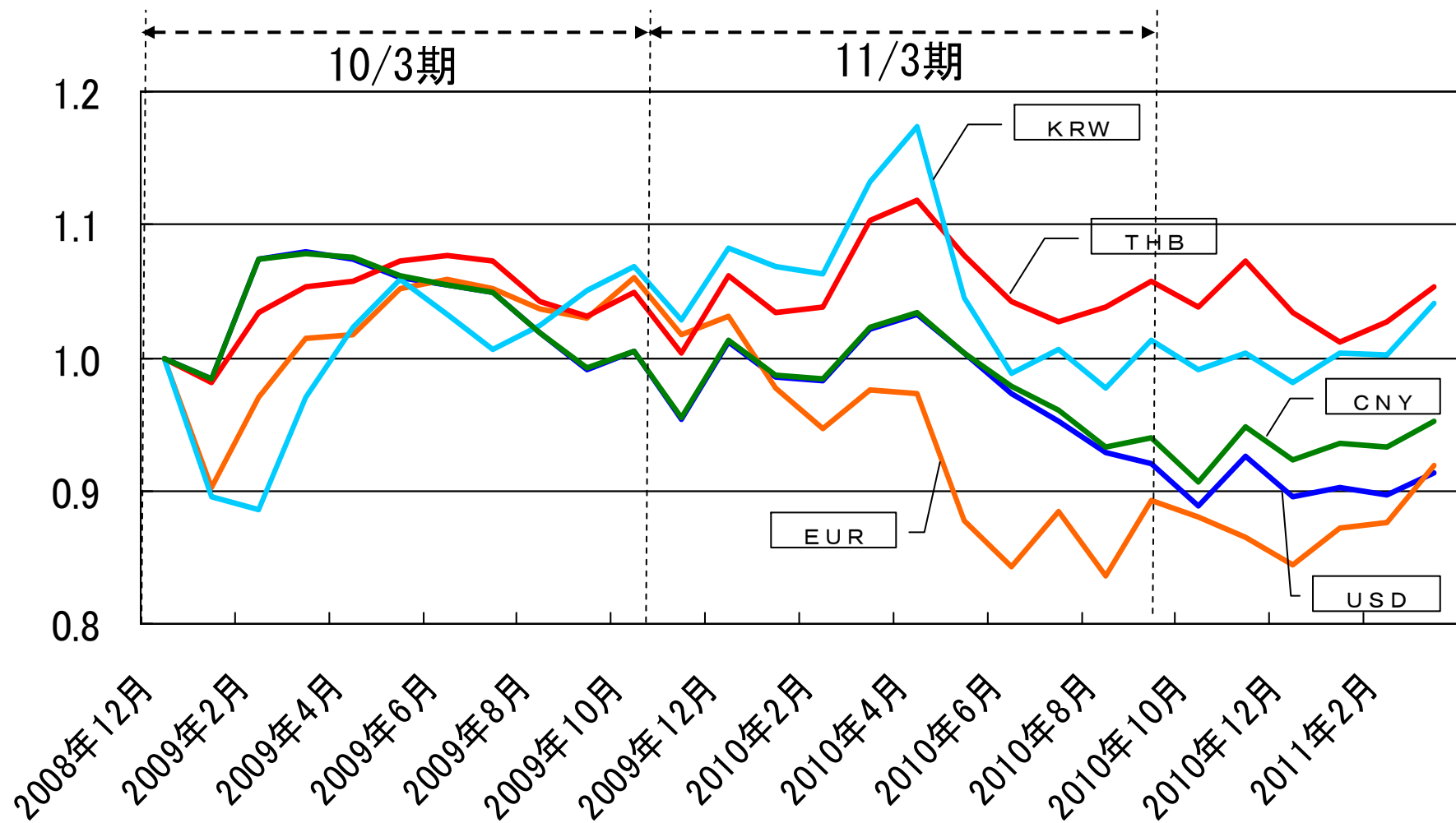
	10/3期 実績	11/3期 実績	前年同期比	
			増減	増減率
売上高	73,593	84,811	+11,218	15.2%
営業利益	2,450	5,056	+2,606	106.4%
経常利益	2,540	4,967	+2,426	95.5%
当期純利益	1,234	3,333	+2,098	170.0%
海外売上高	24,657	34,676	+10,018	+40.6%
(海外売上高比率)	(33.5%)	(40.9%)	(+7.4pts)	—
アジア(タイ・中国他)	18,100	27,443	+9,343	+51.6%
その他(米国・欧州他)	6,556	7,232	+675	+10.3%

為替レート(期中平均)

US\$=93.73円

US\$=87.32円

(4) 為替の推移



タイバーツ、韓国ウォンは円安に推移したが、ドル、ユーロ、中国元は円高に推移。

(5) セグメント別売上高

単位：百万円

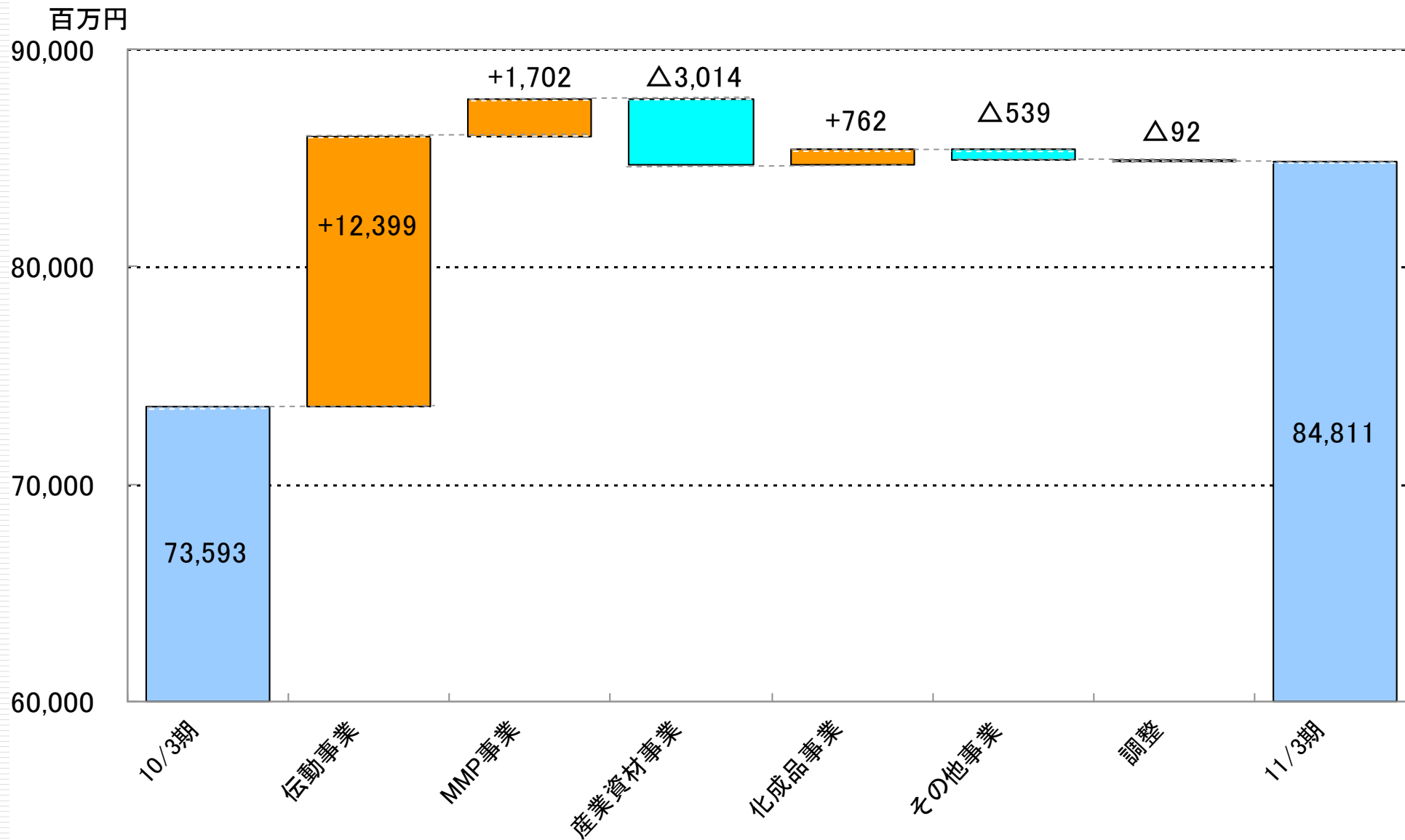
	10/3月期 実績	11/3月期 実績	前年同期比	
			増減	増減率
売上高	73,593	84,811	+11,218	15.2%

セグメント別売上高

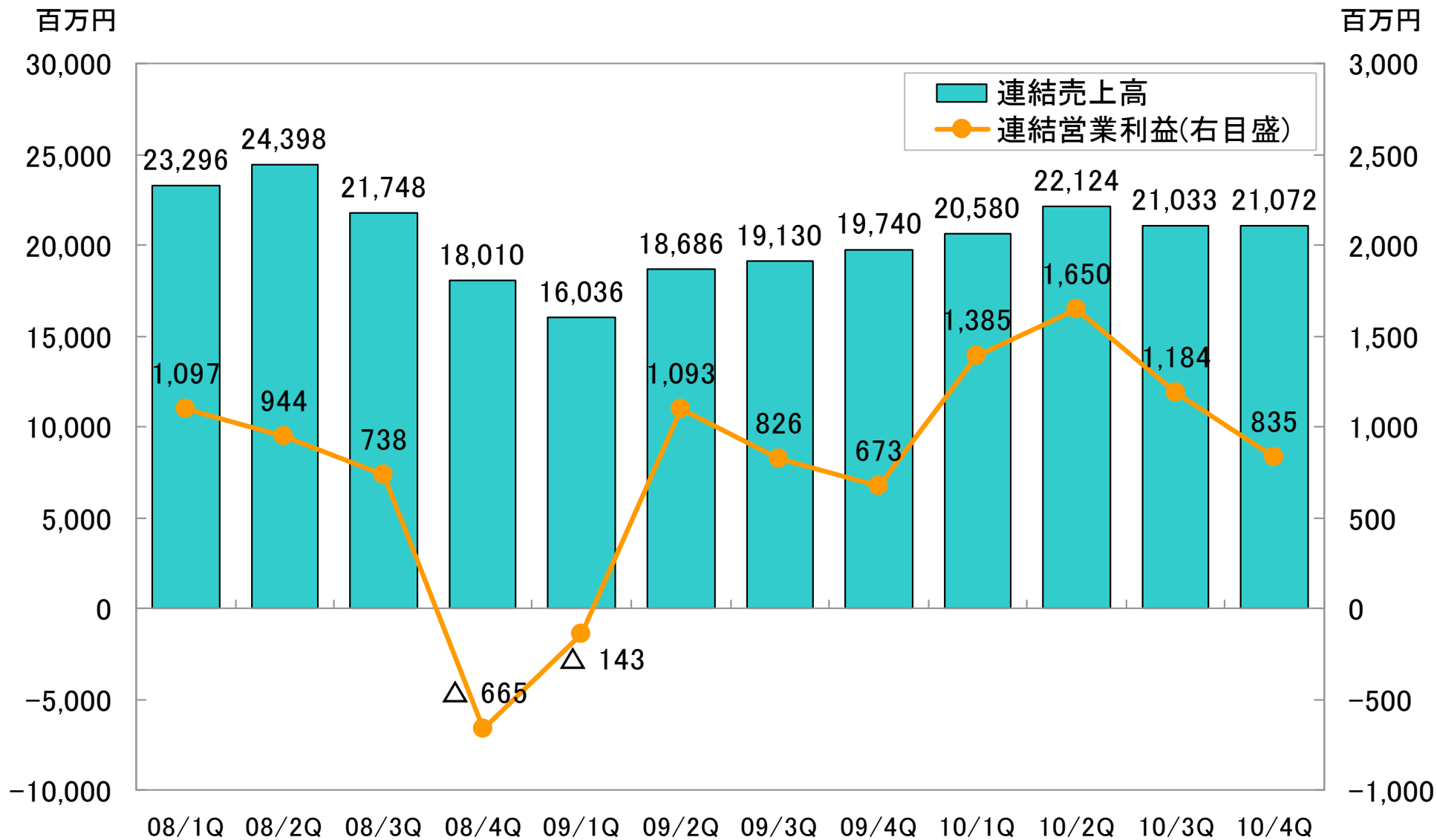
伝動事業	40,084	52,483	+12,399	30.9%
マルチメディアパーツ事業	8,934	10,636	+1,702	19.1%
産業資材事業	18,762	15,747	△3,014	△16.1%
化成品事業	4,075	4,837	+762	18.7%
その他事業	2,653	2,113	△539	△20.3%

※各セグメントの売上高は消去前

(6) 売上高の増減分析



(7) 売上高・営業利益四半期推移



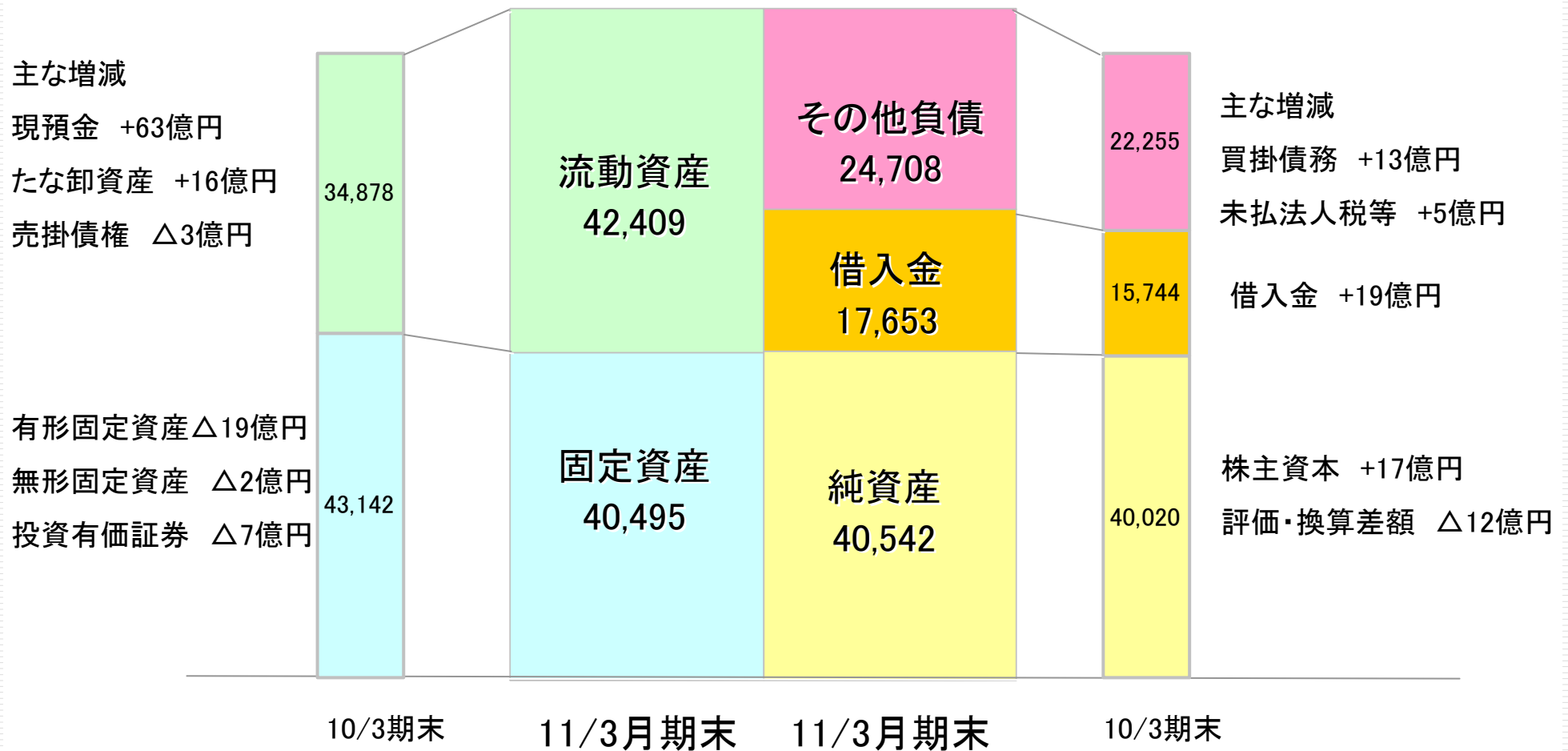
(8) 營業外損益・特別損益

単位：百万円

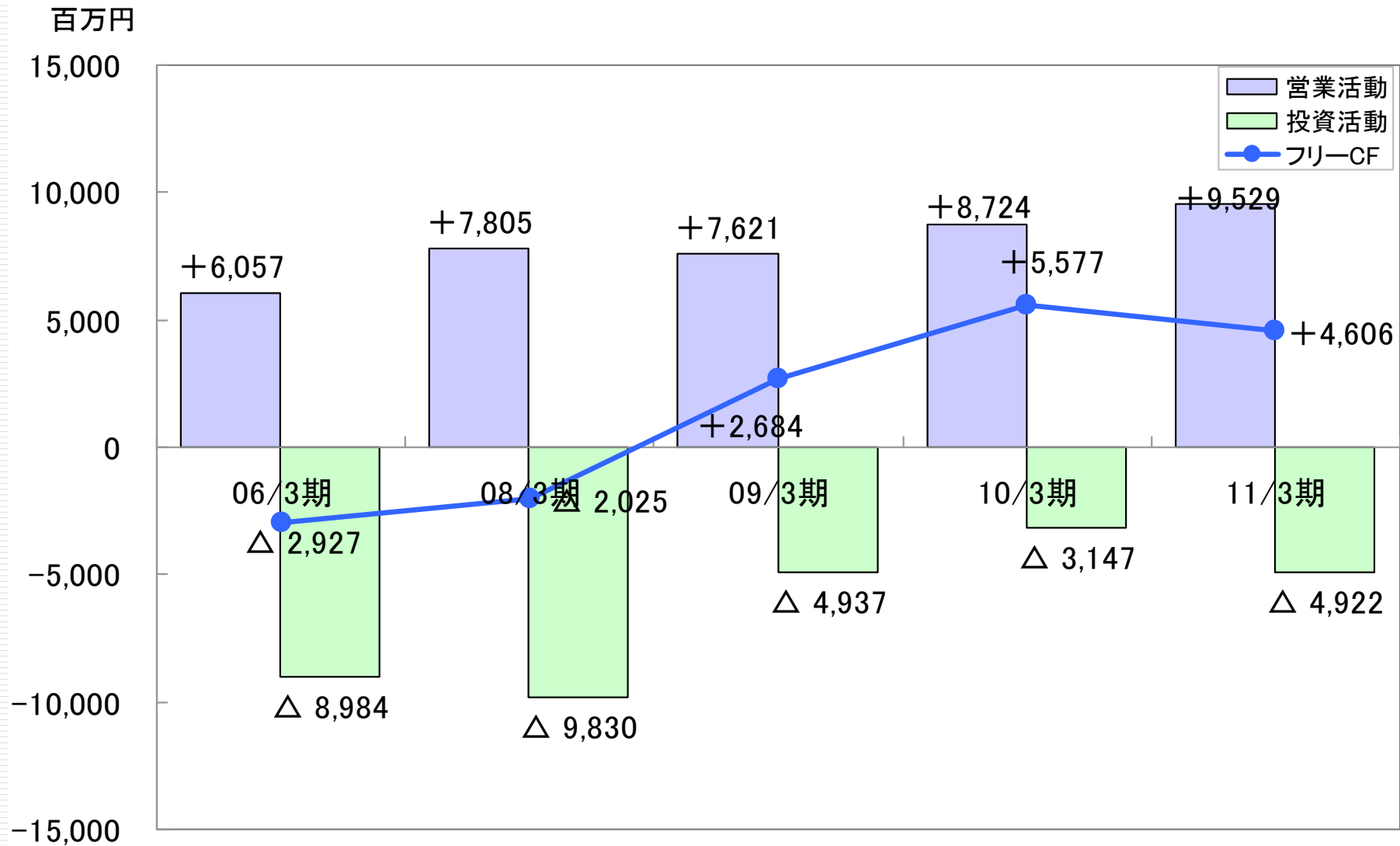
	10/3期 実績	11/3期 実績	前年同期比 増減
営業利益	2,450	5,056	+2,606
営業外収益	882	864	△18
営業外費用	792	954	+162
経常利益	2,540	4,967	+2,426
特別利益	299	267	△31
特別損失	751	324	△427
法人税等・少数株主損益	853	1,576	+723
当期純利益	1,234	3,333	+2,098

(9) 貸借対照表の状況

単位:百万円



(10) 財務状況の概要 (キャッシュフローの推移)



(11)指標

	07/3月期	08/3月期	09/3月期	10/3月期	11/3月期
ROE	10.0%	12.3%	△0.6%	3.2%	8.5%
ROA	4.1%	5.8%	△0.3%	1.6%	4.0%
自己資本比率	43.2%	48.5%	48.7%	50.2%	47.9%
D/Eレシオ	44.9%	42.1%	47.3%	40.2%	44.5%
純有利子負債	109億円	143億円	122億円	71億円	27億円

※ROE、ROAの利益は当期純利益を使用

2012年3月期業績予想について

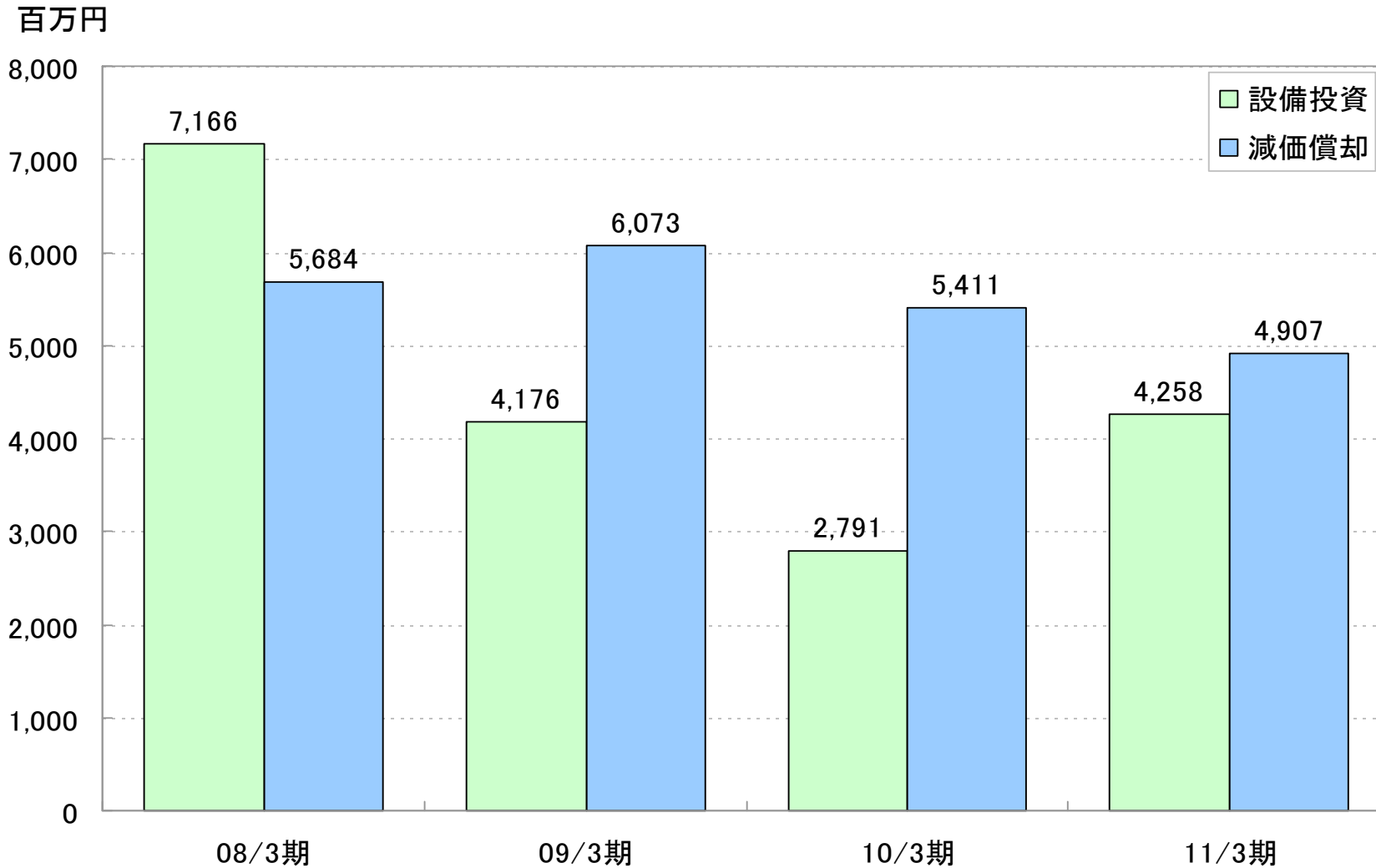
(1)2012年3月期見通しについて

現時点では、合理的な算定は困難なため、業績見通しは未定とした。開示可能となった時点で速やかに開示する予定。

■とりまく環境

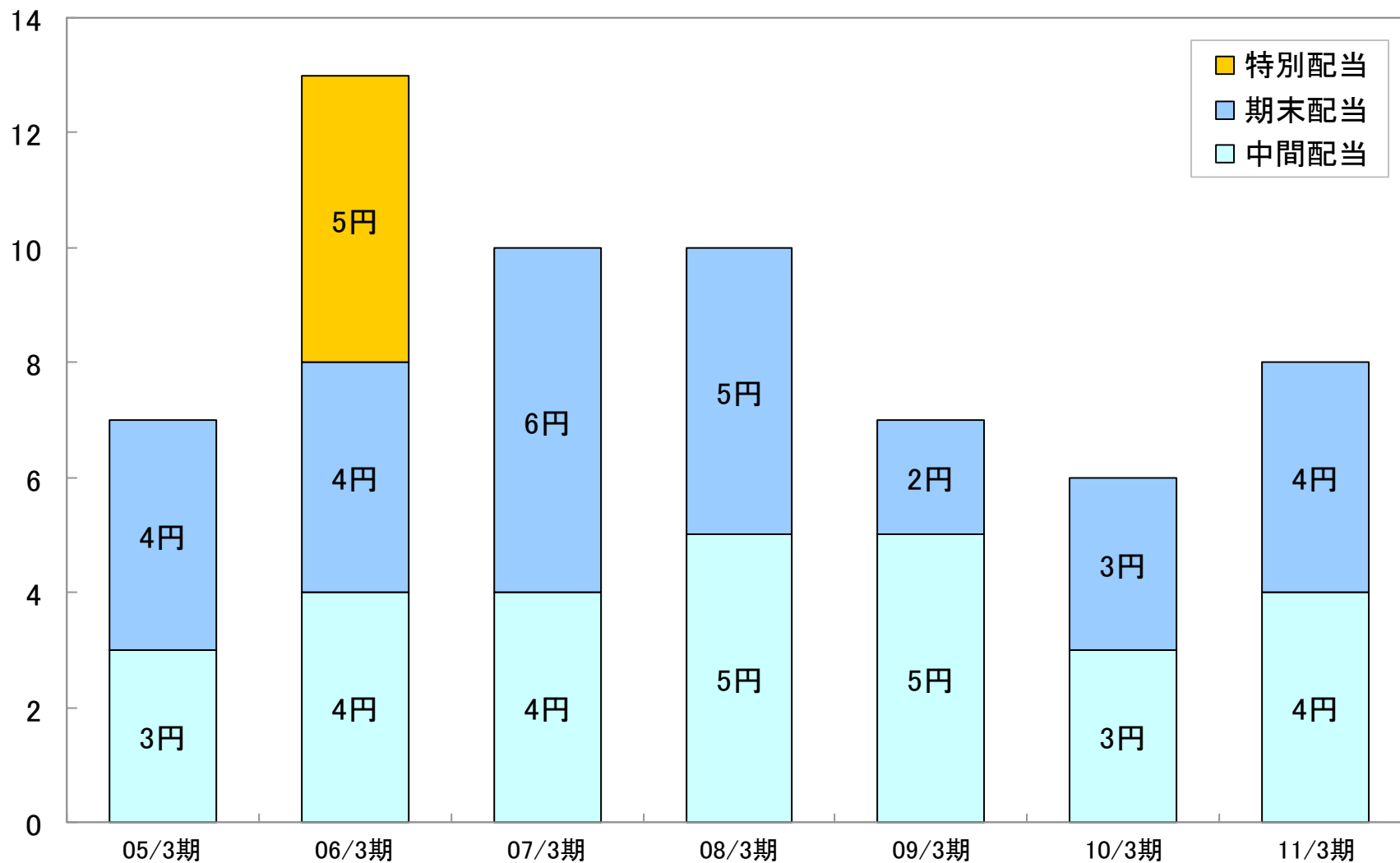
- 国内においては、東日本大震災の各需要業界の活動水準が不透明
- 海外においては、景気は引き続き緩やかに回復に向かいつつあるが、政情不安に伴う原材料価格の高騰、円相場の高止まりの傾向

(2)設備投資額と減価償却費の推移



⇒海外投資を重視

(3)株主還元(配当金)



(4) 株主還元(総還元額)

